

止如有人不取 聖上駟使、不伏、其人在衆生、即是返逆償、若有人受 聖上進止、即成人中解事、云々
70行以下に

第三、須怕父母、祇承父母、將比天尊及 聖帝、以若人先事天尊及 聖上、及事父母不闕、此人於天尊、得福不
多、此三事一種、先事天尊、第二事 聖上、第三事父母、爲此普天在地並是父母行據此 聖上皆是神生、今世雖
有父母見存、衆生有智、計合怕天尊及 聖上、并怕父母、

82行以下に

第二願者、若孝父母、并恭給、所有衆生、孝養父母、恭承不闕、臨命終之時、乃得天道、爲舍宅、爲事父母、如
衆生無父母、何人處生

等と見ゆるものがそれである。第一の佛教に關係した文句を用ひて居ることについては、何人もかゝる文句が本來
景教の原典に存し、之を譯出したものであると認むるものは無からう。或は景教が支那に來る迄の間に經過した諸
國に於て、かゝる經典が作成せられ、それを漢譯したのでは無からうかといふ疑は、或は挾み得られるかも知れな
いが、然も此の疑問は次の儒教思想との調和を計つた點に考合せると、矢張り唐に於て論述されたものと見るのを
以て適當と認めたい、そこで第二の君父に對する觀念に關する論述について考へて見なければならぬ。

こゝに聖上と記された言葉は種々の意味に考へ得られようが、然も既に神とか主とかに對して天尊と書き、メン
ヤに對して彌師訶迷師訶と書き、イエスに對して移鼠と書いて居る以上、これを以て帝王の意を示したものと見る
のは當然の解釋であつて、上に掲げたる所及び殘卷中の其の他に見ゆる所に依つても、此の語をかく解釋すること